

Bauhaus. Project



BAUHAUS.

The house satisfies the functions,
and it's strong and am cheap and there should be it beautiful.



Architecture
Presentasion

architect
Tomoaki Kon

Architecture Lab
Kon office

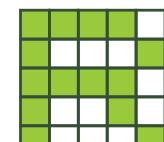


建築家と建てる家を、
身近に、手軽に



注記文

※建築家住宅（建築士の資格を持つ独立した建築家により基本設計された住宅）
主要供給事業者 9社における2017 年度供給数
(株)矢野経済研究所調べ/2018 年 10 月現在



R+house





担当建築家

今 知亮

Tomoaki Kon

一級建築士事務所アーキテクチャー・ラボ KON オフィス@東京

何よりも「プロセス」を大切にしています。

クライアントと親密に意見を交わすことで、法規制による制約や暮らしの中の不便さを、独自の切り口で解決します。出来上がった住宅は、日常的に居心地がいいのではなく、愛着が沸き自慢したくなるような“心躍る”住宅にします。

Profile

1981年 北海道生まれ

2006年 有限会社アーキテクチャー・ラボ

2016年 アーキテクチャー・ラボ KON オフィス 設立

デザインの素晴らしさ&長持ちするデザイン

今の日本の住宅の寿命は約30年というのが普通です。

ちなみに、アメリカでは70～100年以上、イギリスでは100～120年以上。

建物の設計や住まい方次第で、家の寿命を延ばすことは可能なんです。

日本と欧米、なぜこんなに違いがあるのか？

欧米では、ライフスタイルに合わせ自由に変更できる家なので、

お金あまりかけずに、生活に合った良い暮らしをしたり、子どもの世代に受け継いだり・・・

そんな良い循環ができているので建物の寿命が長いのです。

実際に、何十年も前にデザインされた建築や家具が今の時代でも愛され続け、

価値のあるものとして受け継がれています。



1904年
バレルチェア



1920年代
LC2/LC3 ソファ



1929年
バルセロナチェア



►ミース・ファン・デル・ローエ
1931年 サヴォア邸



►フランク・ロイド・ライト
1936年 落水荘



►ル・コルビュジェ
1951年 ファンズワース邸

建築家の高度な設計スキル

お客様のライフスタイルにあった設計をする上で重要なことのひとつに

『動線』を考慮することがあります。

動線とは、家の中を自然に動くときによく通る通路のこと。

普段の生活で朝の忙しい時間帯や、夜の家族でくつろぐ時間帯での

動線、炊事・洗濯・取り入れ・お風呂・就寝の準備など

家事をする時の動線、来客があるときの動線など、その家族に合った

動線を計画する必要があります。

お父さんの部屋

お母さま様にご指示いただいたように南東に配置し、南側の窓は
開け出しています。またLDKへ行く用口、さあお掃除と行き来する用口は不便ないように北面のどちら引戸にしてあることをご指示下さい。
さあお掃除用口はどこで行きたいと考えてみらばよろしく、どこ多くがいいか、
どのほど、どのくらいの大きさを確保してほしいということにもこまじめにござんな
感じになりますが、今が把握してあいた方が良いと思いまして、一度ある
程度の位置に置いておき、少しずつアドバイスをさせていただきます。
お掃除用口は、少し狭めのドアでも構いませんが、幅は狭く狭くないで、
奥深い奥が良かども、幅は、少しだけ狭いトライアルでこのように書かれて
置かれてあります。参考にして下さい。

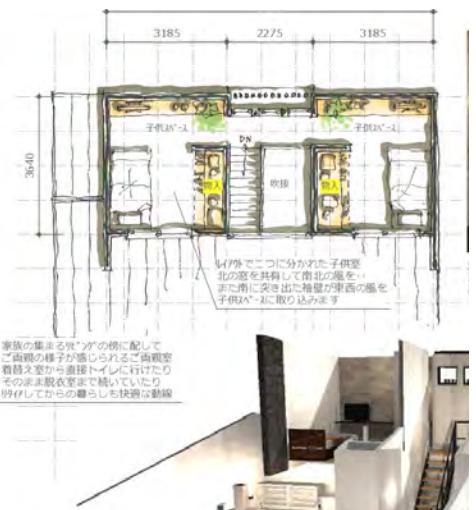
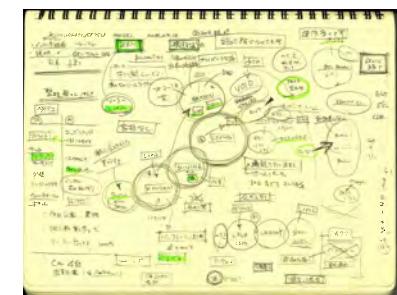
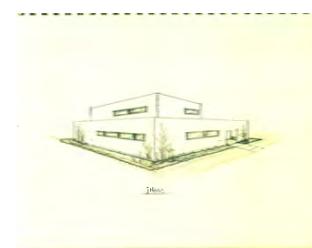
お母さんの部屋・押入れ

さあお母様の部屋は配置してあります。黄色い部分は、
LDK（廊下）への用口、さあお母様の部屋（お母さん室）は、
南側の用口になる引戸にしてあります。ご安心ください。また、ご添間から
いたために、またお隣の部屋を囲むようにしてあります。お2人の寝具を収納
するための押入れは、丁度良い位置に確保できています。実は、今
さあお母様が使っている2台とも、洋服掛け、壁掛けの構造では、これまで配置に
なるのがなまづ書いてあります。参考にして下さい。

お母様は、毎日の負担が減るよう、WCを一番近くにするようにしました。
少しでもラクしたいEだけだと思いま。

全体の配置について

さあお母様は、LDKと他の部屋とのアクセスを日々の生活の
都合に沿って考えました。お母様は、大切にしあらはる和室の考え方をきちんと
成り立つようにしてあります。ごとに、お母様が安心して快適に暮らして
いけるよう心を込めて計画させていただきました。



敷地を読む

樹木は同じ種類でも同じ形のものは一つもありません、枝ぶりも違う。
 それは生えている場所が違うからです。
 住宅も同じです。敷地に溶け込むデザイン、自然の風・光を利用する
 デザインになるべきなのです。
 建築家は、まず敷地を見て、その中でお客様の要望を入れて
 全体的にデザインしていきます。



建築家 藤本誠生建築設計事務所@熊本 藤本誠生



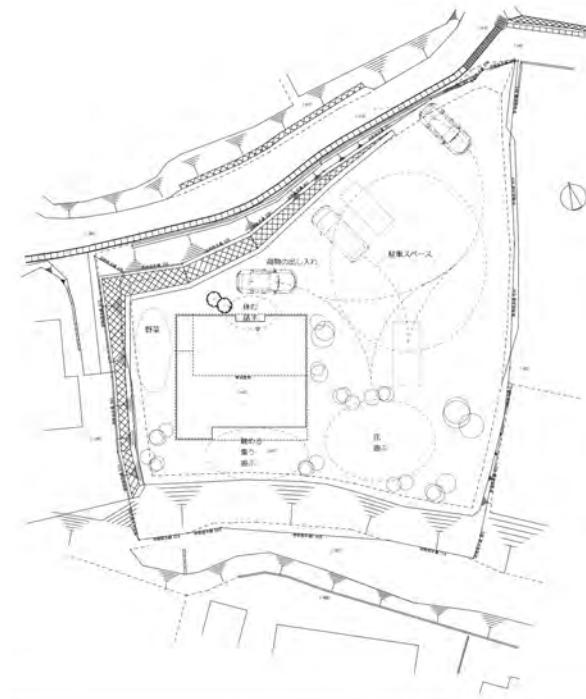
建築家 スギハラ建築設計事務所@広島 杉原豊実



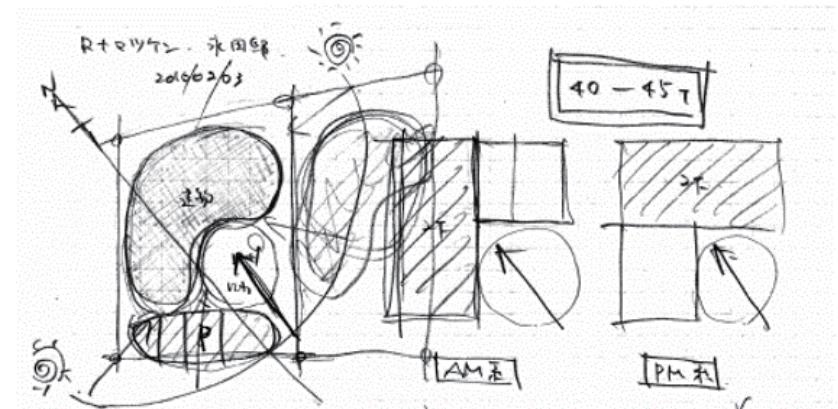
建築家 小川建築設計事務所@山口 小川真一郎
2018/03/17



建築家 小川建築設計事務所@山口 小川真一郎



光・風・周辺の交通量・車が多いか・
 人が良く通るか・昼夜のギャップ・隣家と距離感・
 隣家の窓・玄関位置・どんな部屋なのか土地の
 個性を考え、間取りや窓の位置は必ずその敷地に
 合わせて作りこまれています。



ヒアリング力と提案力

建築家と住宅会社の設計担当者とでは、家づくりに対するアプローチが全く違います。

例えば・・・・

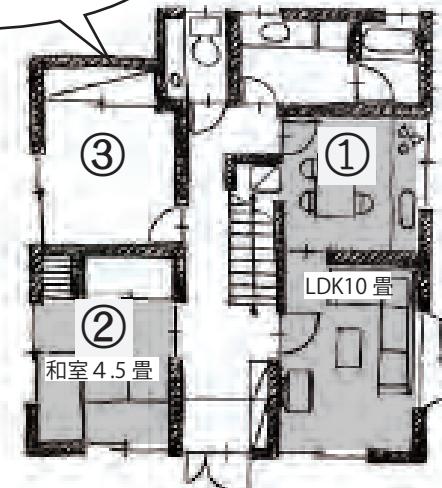
LDKは何畳欲しいですか？
和室は何畳欲しいですか？

①リビングとダイニングは分けて全部で
12畳くらい欲しいです！

②和室は5畳あるといいなあ・・・！

③洋室も1つ欲しいな

空間の寄せ集めプラン



一見、要望を聞いてくれて反映させてくれているように感じますが、
これは要望をパズルのように当てはめただけの【空間の寄せ集め】になります。
それは、本当にお客様にとって最適な間取りなのでしょうか？

建築家は、こう聞きます。

「目をつぶって想像してください。建てた家で何をしている光景ですか？」

その答えが、一番やりたいことです。そのライフスタイルを実現してくれるのが建築家。
簡単にヒアリングされて出てきた間取りと、しっかりヒアリングされプロの建築家の知恵が反映された
結果とは違います。



さあ、建築家の提案を見てみましょう→

建築家の解決ポイント①

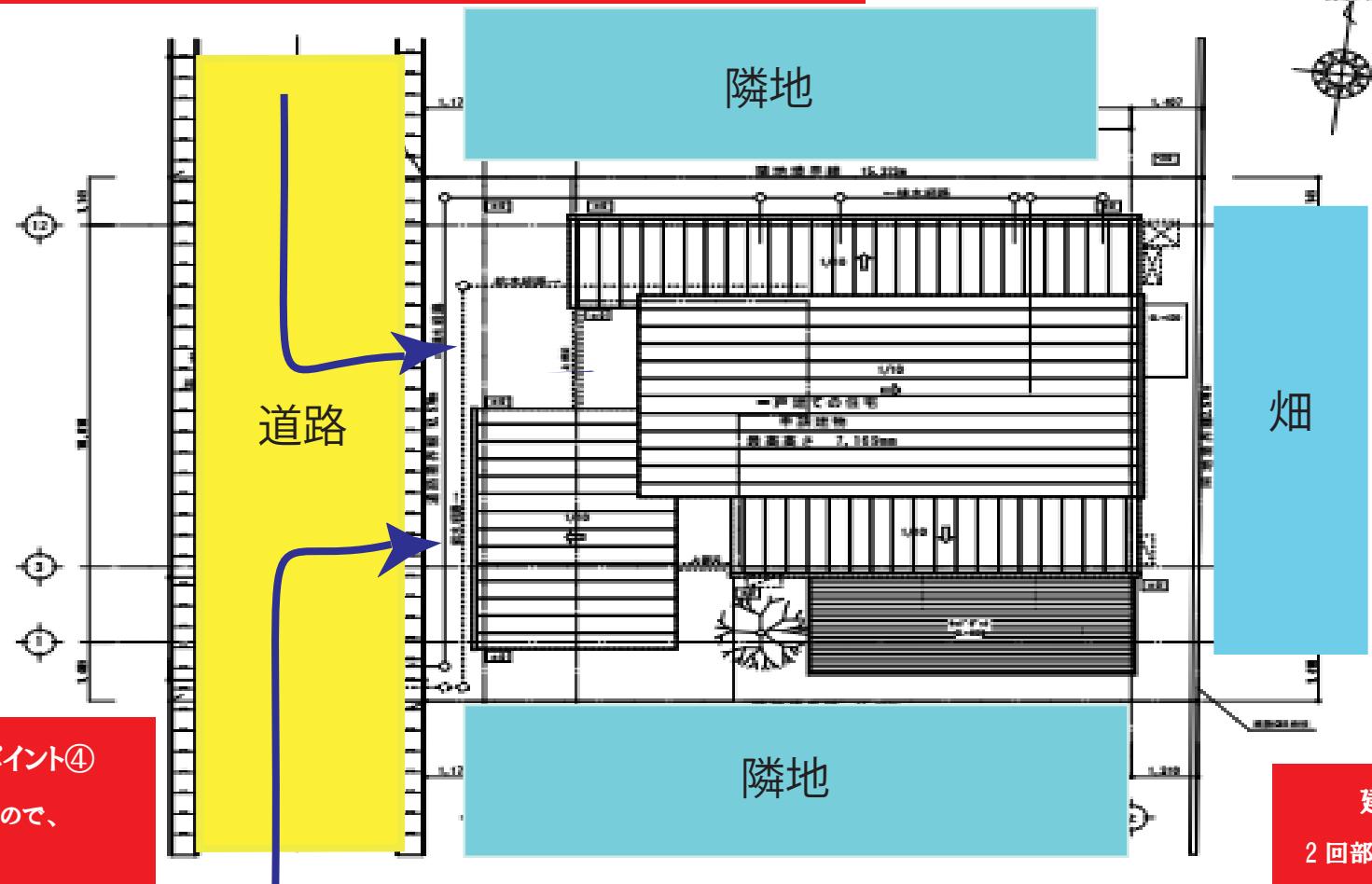
これから住宅が建ち始める分譲地。

敷地は西側が道路と隣接しており、形状は道路との高低差もなく正方形に近い。

もともと平屋希望だったが、敷地を実際見て平屋よりも2階をコンパクトにした平屋のような2階建てに。

block planning

配置計画



建築家の解決ポイント④

リビングを南に配置したので、
プライバシーも守れる。
外から室内が丸見えをいう
こともない。

建築家の解決ポイント②

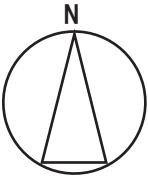
建ち上がった建物のかたちは、これから建つ周辺の住宅よりも目立つようデザイン。

道路から見たときの見え方が特徴的になるようにした。

建物の中心に2階建て、その周りに3つの下屋を配置し、隣地に対して均等に距離をとった。風車のような4枚の異なる向きの屋根により、平面的にも立体的にも特徴的な住宅に仕上げている。

建築家の解決ポイント③

2回部分北側・南側はあえて2階を削って1階より2階を小さくしている。
そうすることで今後両側に家が建っても
圧迫感をなくす建築家の気遣い。



洋服や帽子が多いから、クローゼットは広い方がいいよね。
あとやっぱり、来客時に見えないような位置にしたい。



脱衣・ランドリールームは兼用がいい。
水回りは、コンパクトにまとめたい。



家族全員分と季節ものや節句ものを一括収納できる
ようにファミリークローゼットを設けました。
ランドリールームで室内干しした衣類などもたたん
でそのまますぐ収納できる位置に。



浴室・洗面・脱衣・洗濯の家事導線をまとめました。
十分な広さのランドリースペースを確保し廊下と兼ね
ることで広く使えます。
また、階段近くに洗面とトイレがある事で2階からも
使用しやすい位置に。もちろん、LDKとの距離も近い
ので使いやすいです。



ベビーカーを置いたりできるような広いシューズ
クローゼットあったらいいな。
でも、丸見えは嫌だわ。



自然とリビングに集まるような空間にしたいよね。
キッチンは、立っていながらでも家族の様子が見え
るようLDK向きにしたい。
キッチンとダイニングはフラットにしたい。
あと、電子ピアノもリビングに置きたいわ。



玄関とシューズクローゼットは一体
感を待たせています。
仕切ってしまうより、広く色々な使
い方が可能です。



駐車場は、雨にも濡れないよう
インナーガレージにしたいね。



まず、テレビに対してキッチンとデッキが両サイド
にある横長に広いリビングになっています。
キッチンは、オリジナルの造作テーブルなどにも
対応できるよう計画。
または、勝手口を設けゴミなどを外に置くことが
可能で。電子ピアノは、デッドスペースになりがち
な階段下のスペースを有効に使えるようにしました。



西側に2台分まとめて、ハーフガレージとして
計画。
ゲスト用1台は玄関アプローチと兼ねた、省ス
ペース化を図りました。
ガレージと建物の間を少しあけることで、壁に
光が入り開放的になるように計画しています。



子供が小さいときは和室に布団を敷いて寝るし、後々両親と住むことを考えると
和室は欲しいよね。



普段は、和室もLDKの一部として使って頂けるようにこの位置に。
リビング側は開口部となっているので、ロールスクリーンやブラインドで
目隠しする事で空間にアクセントをつけました。

2nd
f l o o r

2階にも布団を入れる収納があるといいね。



6帖+収納の主寝室を設けました。
南側と西側の2面彩光でゆとりある
スペースを確保しています。



子供部屋は、3部屋欲しいけど
最初から仕切ったほうがいいの
か後から仕切ったほうがいいの
か悩むよね。



子供さんが小さいうちは広くのびのび
と自由に使っていただけるようオープ
ンにするほうが使いやすいと思いま
す。
将来的に間仕切る事を想定した窓の配
置にしていくので、壁を設けてもい
いですしパーテーションなどで仕切っ
てもいいと思います。南面にすることで、明るい部屋になっています。



LDKを感じながら2階へ行けるような感じに
したい。1階とのつながりも欲しいね。



階段上部にFIX窓を設置することで、1階部分に光を
落とします。
1階LDKとの繋がりを考慮しつつ、リビングからは
見えない位置に。



書斎なんかあると嬉しいけどな。
まあ、無理にじゃないですが・・・



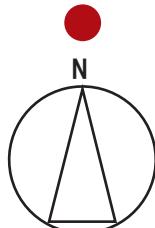
1.5帖の書斎を設けました。
デスクと収納を置くことが可能です。
扉を開けてたま家族の気配を感じ
ることができ閉めれば完全個室とな
り集中できる空間に。



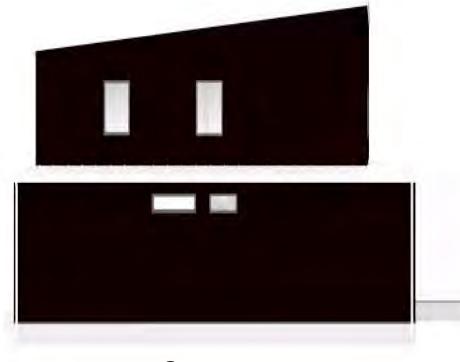
わー！書斎がある！
すごく嬉しいです。



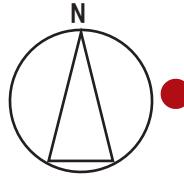
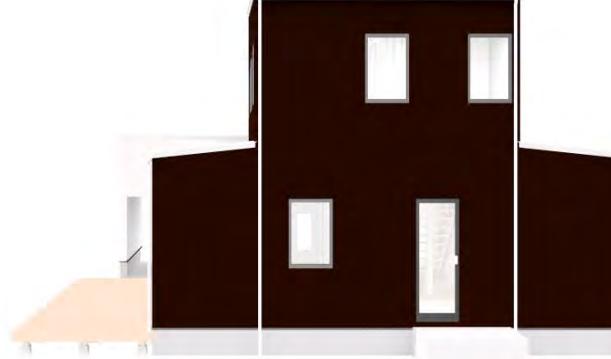
南側。現在は空地だが今後家が建った場合、隣家の裏側になる可能性が高い為、隣地から距離を取った配置計画。南側に庭をつくり庭に各部屋が面する事で採光を確保。



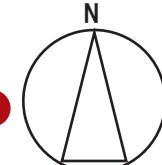
北側。隣家の南側の開口部に来ることが予想されるので横長の窓で目線より高く配置することで外からは見えない。プライバシーに考慮した窓の配置計画。



東側。今は畑だが今後家が建つ可能性あるため縦長の窓にすることで外からの視線を入りにくくする。



西側。道路の反対側に住宅が建つが距離があるためプライバシーはそれほど心配ない。正面からは玄関ドアが見えない位置に配置。玄関ドアが開いたときに丸見えになることがない。



熊本風配図

・・・とは、ある場所における一定期間の風向の頻度を八方位もしくは一六方位に分けて表し、同時に各風向きの平均風速をも示したもの。

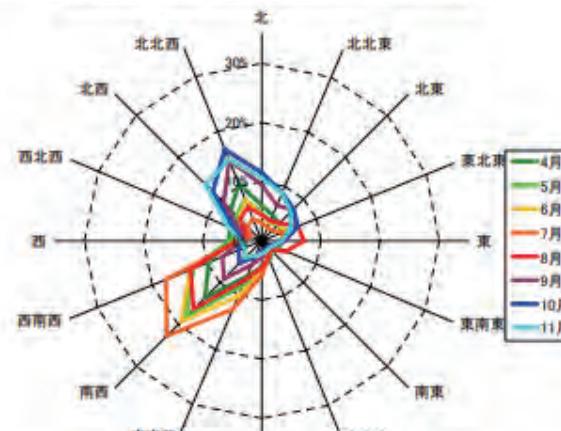


図4a 月別風配図(起床時)

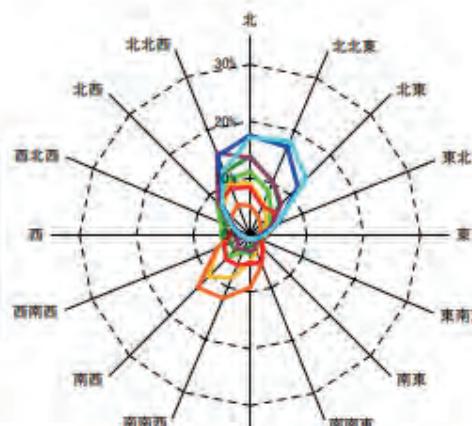
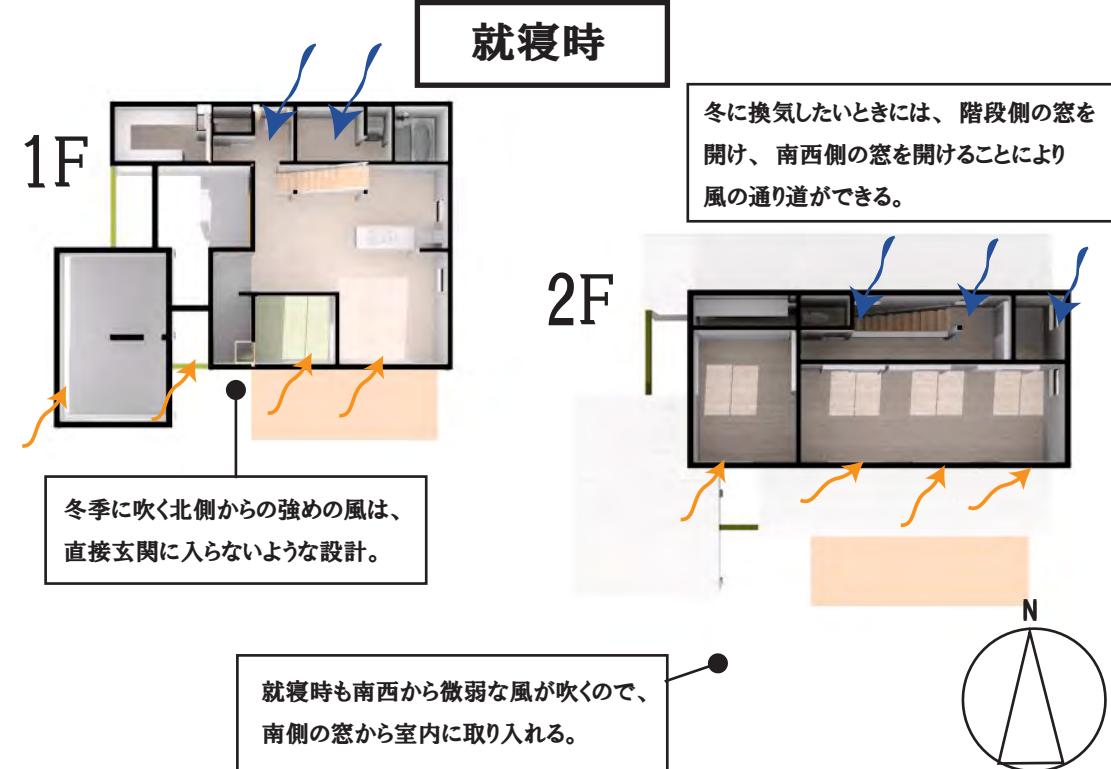
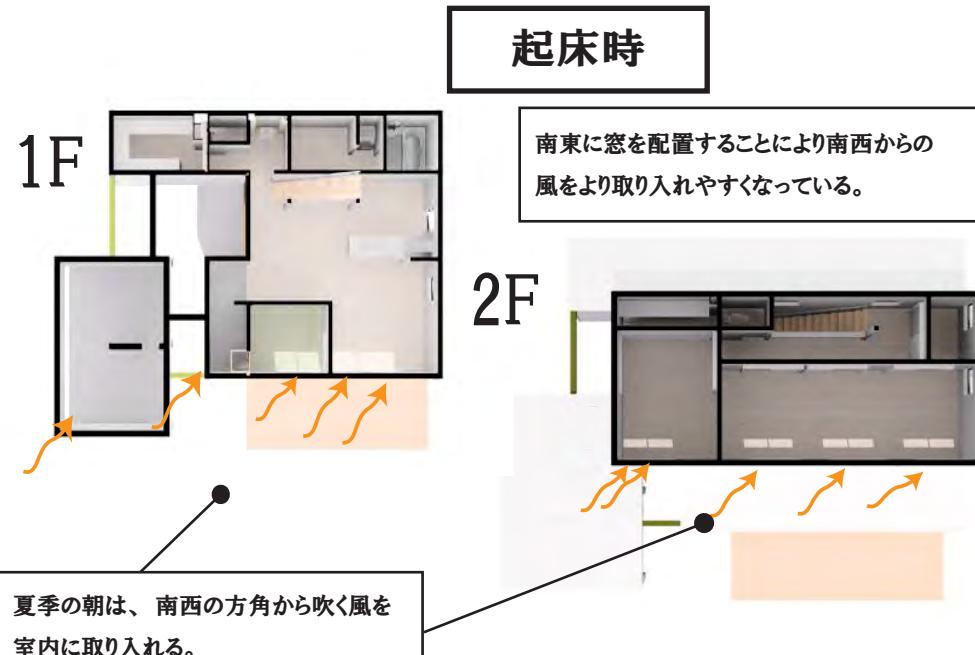


図4b 月別風配図(就寝時)



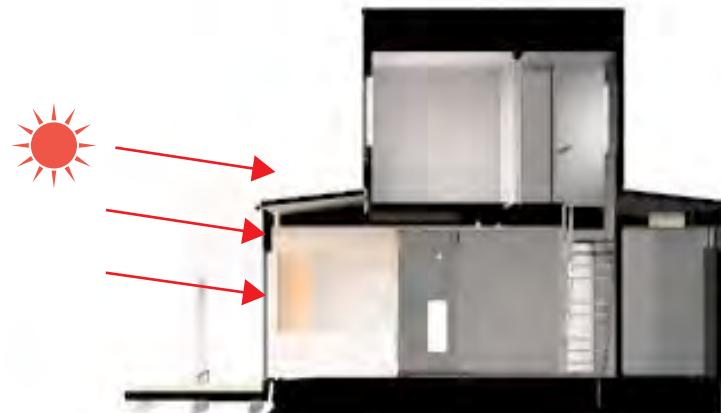
冬は部屋の奥まで光を取り込み暖かく、夏は窓から入る直射日光を避け、涼しく
自然の力を最大限活かしたパッシブ設計。

真冬午後12時



(冬至)

太陽の南中高度（太陽が真南にきて、一番高く上がった時の地平線との角度）が低くなる為、窓から部屋の奥まで暖かい光を取り込むことができる。

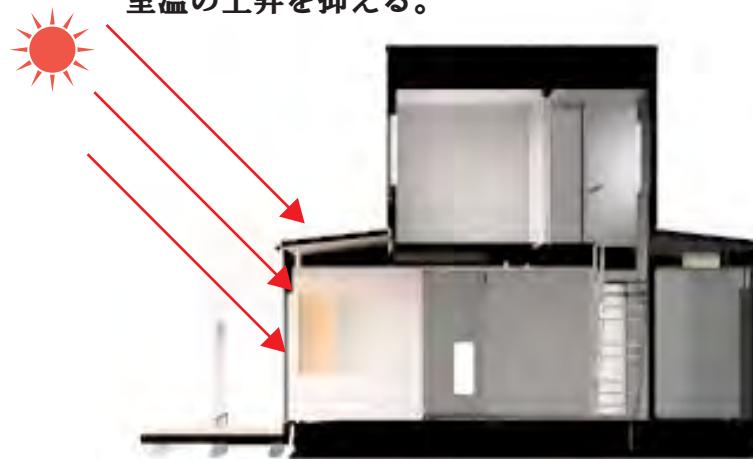


真夏午後12時



(夏至)

太陽の南中高度（太陽が真南にきて、一番高く上がった時の地平線との角度）が最も高くなる為、軒を出して日射を遮り、室温の上昇を抑える。



夏と冬では太陽の位置が異なります。建築家は季節ごとに変わる太陽の動きも熟知した上で設計します。